



HER2 陽性早期乳癌の高齢患者に対する TCH と ACTH の毒性と有効性

トラスツズマブによるアジュバント治療の完遂率に差があった

J Clin Oncol, 10;35(29):3298-3305,2017

ヒト上皮増殖因子受容体 2 型 (HER2) 陽性乳癌の高齢患者に対するアジュバント治療では、ドセタキセル+カルボプラチン+トラスツズマブ (TCH) レジメンとドキシソルビシン+シクロホスファミド+パクリタキセル+トラスツズマブ (ACTH) レジメンとの間で治療を要する有害事象の発生率に差はなく、一方でトラスツズマブによるアジュバント治療の完遂率は TCH の方が高いという研究結果が「Journal of Clinical Oncology」2017 年 10 月 10 日号に掲載された。

米ノースカロライナ大学の Katherine E. Reeder-Hayes 氏らは今回、米国の癌登録データベースである SEER-Medicare の 2005 ～ 2013 年のデータを用いて後ろ向き解析を実施。66 歳以上でステージ I ～ III の乳癌と診断され、ACTH または TCH によるアジュバント治療を受けた患者 1,077 人の転帰を評価した。評価項目は、治療関連の毒性および生存率、トラスツズマブ治療の完遂率とした。

追跡期間中に臨床では TCH の使用が増えており、ACTH を受けた患者の割合は 2005 年の 88% から 2011 年には 15% へと減少したことが判明した。傾向スコアマッチングにより両群間の患者背景を一致させた ACTH 群 208 人と TCH 群 208 人を比較したところ、有害事象のために入院または外来を受診した率は ACTH 群で 34%、TCH 群で 36.5% と、両群間で有意差はなかった (P=0.46)。また、5 年乳癌特異的生存率 (BCSS) および 5 年全生存率 (OS) にも、ACTH 群と TCH 群との間に差はみられなかった (BCSS は ACTH 群 92% 対 TCH 群 96%、ハザード比: 2.08、95% CI: 0.90 ～ 4.82、OS は ACTH 群 90% 対 TCH 群 92%、ハザード比: 1.22、95% CI: 0.63 ～ 2.35)。一方で、トラスツズマブ治療の完遂率は TCH 群で有意に高かった (ACTH 群 77% 対 TCH 群 89%、P=0.001)。

Reeder-Hayes 氏らは「HER2 陽性乳癌の高齢女性では、ACTH と TCH のいずれを受けても治療を要する有害事象や生存に差はみられなかったが、トラスツズマブによるアジュバント治療の完遂率は ACTH の方が低かった」と報告。「高齢患者におけるエビデンスは限られるため、毒性や有効性の違いという観点から ACTH と TCH のいずれを選択するかを決めることは難しい。今後は、さらに大規模な前向き臨床試験などを実施し、実臨床での毒性や有効性の評価を進めることが重要である」と述べている。

- (1) メディカルカスタムコンテンツは、AJ Advisers LLC が制作、株式会社プロウエーブが編集 (編集協力 AJ Advisers LLC) した記事です。情報の正確性については万全を期しておりますが、各制作・編集社は、利用者が本記事の情報を用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。
- (2) 本記事の内容及びメディカルカスタムコンテンツのロゴの無断転載・配布を禁じます。
- (3) 掲載されている薬剤の使用にあたっては添付文書をご参照ください。